

知事と区市町村長との意見交換（豊島区）

令和1年10月1日（火）

16時30分～16時50分

○行政部長 それでは意見交換を始めさせていただきます。冒頭、知事から一言お願いいたします。

○知事 今日はお忙しいところ、御足労お掛けいたして恐縮でございます。もう豊島区は本当に勢いがあるって、そして先日も土地の価格評価も10傑のうち上昇率が高いうちの4つですか。すごいですね。それだけ価値が、まちの価値がさらに付いてきて、ハレザも間もなく完成ということで、本当に素晴らしい文化と、アートと文化で、アートカルチャーという戦略がまさしく実りつつあって、西口公園も間もなくということ伺っております。

そして今回、各市長さんに、そして区長さんにお話伺ってるのは、長期戦略を描く時期ということもありまして、豊島区の今後について、また東京の全体としてもこういった方がいいんじゃないか等々、御意見を伺いたく思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○行政部長 それでは高野区長、よろしくお願いいたします。

○豊島区長 豊島区は今お話のように2014年、平成26年には日本創成会議で23区唯一消滅可能性都市と指摘を受けて、大変なショックでありましたけど、ピンチをチャンスに変えて、としま新時代に挑戦をしようということで、100年に一度の大改革を進めているところです

こちらの図にあるように、その挑戦は、2015年の公民連携によるマンション一体型新庁舎からスタートいたしまして、旧庁舎、あるいは公会堂・区民センターのエリアを「Hreza池袋」と命名して、この周辺がまさに国際アートカルチャー都市の拠点です。また南池袋公園、池袋西口公園、中池公園、さらには造幣局跡地の防災公園の4つの公園を中心にいたしまして、真っ赤な電気バス「IKEBUS」が回遊する23のリーディングプロジェクトを進めております。ここにありますように、このプロジェクトの総額では約460億円ですが、東京2020大会までに、これら全てを完成させようということでもあります。55年前、東京五輪によって東京の都市改造がなされたように、豊島区はこのオリンピック・パラリンピックのチャンスを活かして、東京の中でも際立つ個性のある国際アートカルチャーを目指していきたい。東京都の強力なバックアップをいただき、世界に誇れる東京の一役を担っていきたく思っております。

それではまちづくりについて2点、お話をさせていただきます。なんといっても豊島区のシンボルはサンシャインであります。このサンシャインは商業、ビジネス、アミューズメントの拠点として、40年に渡って豊島区の顔として役割を担ってきたわけでありまして。来街者はオープン以来変わることなく、年間3,000万人を超え、全国、全世界から人が訪れているわけでありまして。特に一昨年は3,300万人と、過去最高を記録したわけでありまして、けれども40年経っている。

これは今後さらなる賑わいと魅力を世界に発信し続けるためには、時代に即したリニュー

一アルが必要であるということで、まちづくりはこれから新しい建物をどんどんつくることからではなくて、既存のストックをどう活かしていくかということが大事な時代になるのではないかと考えております。

今までの右肩上がりの将来需要に基づく都市工学的な発想だけではなくて、人々が幸せになるにはどうしたらいいかという、都市経営の視点をまちづくりの柱にするように転換を図るべきではないか。

東京は今後、建物の老朽化が急速に進んでまいります。更新期の建物を全て壊すのではなく、まさにサンシャインシティが先陣を切って新たなまちづくりの方向性を示したいということでもあります。

そのためには東京都と豊島区とサンシャインで既に協議に入っておりますけど、時代の変化に応じた建物用途の見直しのため、東京都の特定街区の都市計画変更が必要になるわけでありまして、先ほども申し上げておりますけど、サンシャインシティは豊島区の顔であると共に、私は東京の顔でもあると考えております。

今、豊島区が大きな都市改造を進めている時こそ、積極的にまちづくりの中心として、東京都の絶大な御協力を賜りながら、この都市計画変更についての御協力をお願いしたいと考えております。

もう一つのまちづくりは、これは池袋の西口の開発であります。池袋の開発の集大成として、知事もご存知のように、この池袋西口の開発がこの池袋副都心の全てではないかと考えております。

今は駅から、サンシャインを除いてまちに人が出ない「エキブクロ」といいますか、駅で全部収まって、ひょうたんの首みたいの外に人が出ない。これを何としても脱却をしたいということで、今回西口の大々的な再開発を計画中であります。池袋西口の再開発なくして池袋の再生はあり得ないと考えております。再開発にあたっては様々な課題がございますが、豊島区としても早期に進めたい事業であり、東京都には御指導等を御協力を賜りたいと考えております。

東京都の御支援をいただき、文化庁の指名を受けて、国家的プロジェクトの東アジア文化都市を開催をしております。いよいよ来月に閉幕しクロージングを迎えますが、中国は西安市、韓国は仁川広域市に負けない日本代表として、東京代表として東京都のバックをいただいて、堂々と文化都市交流を成し遂げようとしているわけであります。

その中でもやはりマンガ、アニメというものが、日本が誇る世界共通の文化ではないかということ、改めて強く認識をいたしました。その聖地がまさに豊島区池袋にあると評価をいただいております。今の池袋はどこでも、どんな場所でも大勢のマンガ・アニメファンが集中をしております。11月2日、3日には池袋アニメファンフェスティバルという、世界に向けて過去最高のイベントをやりたいと考えております。

この魅力ある東京の一翼を担うとともに、ぜひとも東京都の力をいただきながら、豊島区は大きく発展をできればと考えております。

それでは次に、今度は福祉について、もう1点だけぜひお話をさせていただきたいと思

っております。

豊島区は今、本格的な超高齢化の到来を迎えまして、本年4月には総合的な高齢社会対策に着手をいたしました。本区は日本一の高密都市、一人暮らし高齢者の割合は日本一。外国人の割合は新宿に次いで、日本で2番目であります。

他の自治体と比べて困難な状況があることから、一步先んじた対策が必要ではないかと思っております。そこで豊島区は待機児童ゼロ、それから社会的孤立ゼロ、そしてさらには地域の福祉の最先端を担っている民生委員・児童委員の欠員ゼロという、この3つのゼロを実現したいと思っております。

このうち1つ、孤立ゼロに向けての対策として、AI、人口知能を活用した高齢者の見守りの仕組みを、民間企業とともに創出をしていきたいと考えており、見守り等の福祉サービスは単体ではビジネスとしてなかなか成り立たないことから、これまで余り普及してこなかったが、健康とかあるいは医療等のサービスと組み合わせることによって、新たな価値が生まれるのではないかと考えております。

東京都においては、東京版 Society5.0 の実現へ向けた取り組みを進めておられますが、来年度はウェルネス、健康の分野にも取り組むということですが、ぜひこの健康に、福祉の要素も折り込んでいただき、より価値の高いものにしてほしいと思っております。

さらにはこの間、都区共同で取り組み、注目をされてまいりました選択的介護モデル事業のように、東京都と豊島区が共同で取り組むことによりまして、今後の高齢化社会に向けた都市型のモデルを全国に発信をしていきたいと思っております。

スクリーンに示されているのは、実現のイメージでありますけど、具体的にはこれら検討することが必要であり、この例では高齢者にリストバンドを付ける。あるいは常時血圧や活動量を測定して、AI がデータを分析する。3つ目には分析結果に応じて、服薬指導や運動指導をする。そして異変があれば家族や医師に自動的に通信する。

このような形の取り組みをぜひ進めてまいりたいと思いますので、東京都と連携というよりは御指導いただきながら、まさにAI と最先端技術を活用した一人暮らし高齢者対策、これをぜひ実現をさせていきたい。以上でございます。

○知事 ありがとうございます。本当に進捗状況が手に取るように分かりました。ありがとうございます。そしていくつかの点で、都としての考え方、また豊島区と連携できる分野。

例えばサンシャインシティを含む池袋駅の周辺というのは、防災対策や国際競争力強化というところで重要な地域でございますので、特定街区の変更ということについては、今後も引き続き豊島区とサンシャインシティとの協議を進めてまいります。

それから西口地区の再開発についても、アートカルチャー都市構想も踏まえて区と緊密に連携して、事業者との協議も進めてまいりますし、そこが出来上がりますとパブリックビューイング等、2020 大会の重要な所になりますので、そういった点も含めて協議を進めてまいりたいと思います。

それから環状第5の1号線、雑司が谷についても引き続き連携をさせていただく考えで

あります。

それから2つ目のテーマが、高齢者世帯の45%が2040年東京においては一人暮らしという予測になっています。高齢化率を見ますと、豊島区はむしろ20%を切るような数字にはなっておりますけれども、しかし東京全体としても高齢化、そして一人暮らしというのは大きなテーマであります。

お話のあったSociety5.0でありますけれども、今AIやIoT、ロボット等、第4次産業革命ということで、これらについては日進月歩の国際的な競争もあり、これをどうやって東京都において実際の生活に活かしていくかということは、重要な点であります。

そういったことから、今後一人暮らし高齢者対策、それから少子高齢化、環境、まちづくり、様々な分野の解決策として、このSociety5.0を前に進めることによって、これらの様々な分野で新しい技術を活かしていく、新しい情報通信の世界を適用していくということだと思います。

選択的介護モデル事業ですけれども、これは特区制度の中で豊島区が今唯一実施しているモデル事業ですので、これがそちらのモデル事業の様々な検証例等も含め、より広く活用されるような方向性を求めていきたいと思っております。

ということで、この点についても先駆的な活動していただいておりますので、まだ利用者数は十分とは言えないとは思いますが、でも使い勝手がいいようにするためにはどうすればいいか等々、また情報いただければと、このように思っております。

○行政部長 いかがでしょうか、区長。

○豊島区長 冒頭に申したまちづくりですけど、23のプロジェクトをオリンピック、パラリンピック前に完成させるということを一つの目標で進めております。全体が出来ますと豊島区、池袋を中心にまちがガラッと、本当に180度まちが変わると思っております。勇気を持って挑戦をしておりますので、ぜひそれらについて注目していただくと同時に、あらゆる面でバックアップを頂戴いただければと思っております。

○行政部長 そろそろすいません。お時間になりますので、最後、知事から一言お願いいたします。

○知事 ありがとうございます。東アジア文化都市のプロジェクトも順調に進んでいるということで、おめでとうございます。ぜひ今度、巣鴨の地蔵通りの無電柱化に伺います。より加速的に進めていただければ、これこそモデル地域になると思っております。

今回の台風15号の爪痕を見ましても、無電柱化に対しての意識が大分皆さん変わってきたと思います。ビフォーとアフターと、それぞれよく分かる地域だと思いますので、ぜひ進めていただいて。

○豊島区長 地蔵通りの、アーチも取り付けておりますので。

○知事 はい。

○豊島区長 現地でいろいろ御説明させていただきます。

○知事 そうですね。ありがとうございます。頑張りましょう。今日はわざわざありがとうございますございました。

○豊島区長 とんでもございません、どうもありがとうございました。